２０１２年度　事業計画

（２０１２年4月１日から２０１３年3月３１日まで）

伝統のかおり高き学園を目指して

学校法人　修道学園

2012年度　学校法人修道学園　事業計画

＜法人本部＞

主要項目	具体策	実施月
Ⅰ　人事･給与制度の整備		
1　給与制度の整備	大学部の給与制度の問題点を整理し、あるべき方向性を研究する。	年度内
2　人事考課制度の改善	･大学部の人事考課制度の改善をはかる。 ･中高部の新人事考課制度の運用を注視する。	年度内
3　定年制の検討	大学部は職員、中高部は教職員を対象に、65歳定年に向けた定年制を研究する。	年度内
Ⅱ　資産の運用	･運用目標10億円。 ･中高部は運用額 0円の予定。	年度内
Ⅲ　施設の整備	大学部 ･新3号館･第2期外周道路の着工	4 月
	･インターナショナルハウスの土地取得及び円滑な運用	5 月
	･教職員住宅跡地･己斐学生寮跡地の売却	年度内
	中高部 ･修道学問所（御三の蔵）の復元	11 月
Ⅳ　寄付金募集	大学部 ･60周年に合わせ寄付金を募集する	年度内

2012年度 学校法人修道学園　事業計画
＜大学部＞

主要項目		具体策	実施月
Ⅰ	**キャンパスマスタープラン**		
1	新 3 号館・第2期外周道路の着工	4 月に外周道路の建設を始め、3 号館は 8 月に解体、その後建設工事に着工する。	4 月
2	8 号館の基本計画・基本設計	仕様を決定し設計業者と協議し基本設計を終える。	3 月
3	食堂棟の改修計画	学生などの意見を聴取し、改修計画に反映する。	3 月
4	長期計画の策定	① 2015 年度以降の校舎建替計画の原案を策定する。	3 月
		② 中長期財政計画を見直し、基本金組み入れ計画を策定する。可能であれば、2012 年度補正予算で組み入れを開始する。	3 月
Ⅱ	**教育力の向上**		
1	学士課程教育の充実、学習環境の改善		
(1)	学習支援センターの充実	8 号館建設計画に伴う学習支援センターの拡充・整備計画を検討する。	年間
(2)	カリキュラムの検証と改善	カリキュラムの改正時期や方針を審議・決定する。	年間
(3)	学年暦・時間割の検討	建物建替え計画に対応して検討していく。	7 月
(4)	学習カルテ、ポートフォリオの運用・検証	① 修大ポートフォリオ（ShuP）を検証し、活用を推進する。	年間
		② 学習カルテシステムを導入して運用・検証を行う。	年間
(5)	机・椅子・AV 機器の更新	計画的に教室の机・椅子・機器類を更新し教室環境を整える。	8～9 月
(6)	グローバル人材コースの検討	グローバル人材（仮称）を育成するコースを全学またはいくつかの学部にまたがって設置する案を検討する。	年間
(7)	チューター機能の充実	各学部と教務部などが連携しながら単位僅少者に対する教育支援を充実する。	年間
(8)	履修抽選システムの検証	教養科目の履修抽選システムを検証する。	4、9 月
(9)	GPA 制度の導入	新教学システムの導入に合わせて、GPA 制度の漸進的導入と定着に取り組む。	年間
(10)	資格取得支援体制の見直し	資格取得支援の方法と体制を検討・整理する。	7 月

主要項目	具体策	実施月
2　大学院教育・研究支援体制の充実		
(1)　大学院のあり方の検討	各研究科の実態調査をして課題を抽出し、それを基に各研究科で課題の解決策を検討する。	9 月
(2)　大学院の研究環境・教育環境の充実	新 3 号館の大学院研究室の備品等を整備する。	7 月
(3)　研究支援体制の充実	科研費の間接経費の使途及び手続等を見直し、経費の執行をしていく。	年間
3　情報環境の改善		
(1)　情報セキュリティの向上	部局の情報セキュリティポリシー関連規程を整備し情報資産の管理体制を検討する。	年間
4　FD・SD の充実		
(1)　ワークショップ型、問題発見型研修	第 2 回「修道力フォーラム」を 7 月 31 日(火)午後に開催する。	7 月
(2)　FD・SD 委員会の設置	①　FD 委員会を改組し、事務部局の教育力向上、職員の教育力向上及び業務改善の推進を目的に加えた委員会の設置を検討する。 ②　規程を整備する。	3 月
(3)　恒常的な授業公開の奨励	2011 年度に見直した全学対象に募集し公開する方法を検証し、発展・充実させる。	前・後期
(4)　授業アンケートの効果的な実施と活用	実施科目数を精選するなど、実施効果と効率化の両立に向けて検討を加えていく。	年間
(5)　学習成果の評価方法の検討の奨励・支援	①　「教育成果指標の開発支援」事業の取組グループによる報告をもとに開発を推進する。 ②　ディプロマ・ポリシーに反映するために成果指標のあり方を検討する。FD・SD 研修とも関連づけていく。	年間
Ⅲ　学生の主体的取り組みへの支援		
1　「熟議」の実施	①　文部科学省との共催事業の「熟議」において、地域と連携したプロジェクトに取り組む。 ②　報告会で成果を共有する。	年間
2　インターンシップの充実	課題を洗い出し、アンケート調査の準備をする。	10 月
3　キャリア形成支援の充実	キャリア教育の取組内容を、新規事業支援にあわせ見直して取り組む。	12 月
4　海外留学プログラム・スカラシップ等の点検	①　交換留学の派遣学生を受入相当数に見合う人数に増加する方策（例えば TOEFL の高得点者数の増加策）を検討する。	3 月

主要項目		具体策	実施月
		② スカラシップおよび学費減免制度を点検して課題を洗い出し、アンケート調査を準備する。	
5	サークル活動の支援	① サークルへ教職員顧問の就任を推進する。 ② サークル活動に必要な研修体制を検討する。	年間
6	学生活動支援（ピア・カウンター含）の取り組み	① 学生活動支援連絡会を立ち上げる。 ② 学習支援、学生募集、キャリア支援学生の枠組みを整備する。 ③ ボランティア・カウンターの設置を検討する。 ④ ラーニング・クーポン（キャリア形成スカラシップ）の検討	年間
7	図書館利用の促進	ピアサポート活動を充実する。	年間
Ⅳ	**連携の推進**		
1	高校との連携の強化	遠隔授業を実施（前期 1 回・後期 1 回）する。	6 月・10 月
2	大学との連携	① フラワーフェスティバルへ参加する。 ② 広島市立大学との遠隔連携授業を実施する。	5 月 前・後期
3	地域社会との連携	商工会議所と合同シンポジウムを開催する。	10 または 11 月
4	同窓会との連携	卒業生の住所を掌握する体制を検討する。	年間
5	後援会事業の推進	教育懇談会の充実のため、保証人アンケートを実施し丁寧な懇談会ができるよう運営形態を見直す。	年間
Ⅴ	**安全・安心のキャンパスづくり**		
1	学内禁煙体制に向けた取り組み	講演会を実施し禁煙教育を充実する。	10 月
2	セキュリティ向上への対応	防災体制の整備の一環で、全学的な防災訓練を実施する。	6 月
Ⅵ	**持続的成長に向けて**		
1	組織機構の検討	学科・専攻・グループ制度の業務内容等現状を調査する。	年間
2	教職員の高齢化への対応	教職員の高齢化に対応した人事政策を検討する。	年間
3	教職員の顕彰	表彰制度の実施要項を作り表彰を実施する。	11 月

主要項目		具体策	実施月
4	就労環境の整備	現在の人事 WEB サービスを用いて、既存の人事・給与システムに連動可能な勤怠・就労システムを導入する。	1 月
5	自己点検・評価体制の充実	① 認証評価結果を公表する。	5 月
		② 大学基準協会の指摘事項に対応する。	3 月
		③ 法務研究科自己点検・評価報告書を作成し大学基準協会への申請に向け準備する。	3 月
		④ 入試、広報、就職、学生活動支援の点検評価を実施する。	10 月
6	法務研究科のあり方の検討に向けて	2011 年度策定の方針に基づき引き続き検討する。	年間
7	学部の入学者数の確保、定員管理の適正化	実施する入試制度の点検と評価を実施する。	年間
8	省エネルギー化の推進	省エネルギー推進チームで省エネルギー・節電を検討・実施する。	3 月
9	諸納付金納入に関する納付期限等運用の検討	入学金、在学生の諸納付金の実質的な納入期限の見直し、諸納付金納入規程の改正および手続要領の作成を検討する。	6 月
10	貸与奨学金徴収不能額への対応	これまで徴収不能となっている奨学金の返還・督促等の措置をとる。	3 月
11	教育研究用予算の見直し	学部予算・学科予算・ユニーク予算の内容等を整理する。	8 月
12	広報の強化策を検討	① テレビ CM 枠の実施計画案を作成する。	5 月、8 月
		② 全学的に統一した広報展開に取り組む。	年間
13	周年事業の実施	① 60 周年フォーラムを開催	11 月
		② 60 周年記念インターンシップ連絡会を開催	後期
		③ 人間環境学部 10 周年記念事業を開催	10 月

２０１２年度　学校法人修道学園　事業計画

〈中高部〉

【教員の部】

１．中高部の全体目標

大学進学実績を向上させる。 （東京大学２０名以上、難関国公立大学６０名以上、国公立大学医学部２０名以上）

２．全体目標に関する各部署の重点目標と具体的施策

担当部署	重点目標	具体的施策
校長	大学進学実績を向上させるために、教員個々人の業務実態を把握し、教育環境の最適化を図る。	年度当初に教員全員と面接を行い、本校の事業計画の遂行と教員個々人の業務との関連性を検証する。
中学教頭	６年後の「大学進学実績の向上」「東大合格者数２０名以上」を目標とした戦略的広報活動を展開する。	本校中学入試の上位３００位以内の入学率を向上させるために、地元進学塾に対するアプローチ方法を改善・強化する。
高校教頭	各学年、部署が行う進学実績向上につながる取り組み、指導に対するサポートを強化する。	学年主任、教科主任、部長等と細やかに連絡を取りながら、その学年の特徴に応じた取り組み、および生徒への対応方法について具体的に考えていくとともに、現場で指導する教員の志気が下がらないよう、環境整備に心がける。
教頭補佐	「東大に20名合格させる」進学校になるという最重要課題を達成するための各部、各教科、各学年の具体的な取り組みへの助言、サポート、検証を通して、教職員全体の意識改革を積極的に進める。	３年から５年のスパンで「戦略的な人事構想」を作成し、教職員に明示すると同時に、中核になる教職員の意識改革や 研修を行う。
進路部	東大「志望者」を増やす。（６年時に４０～５０人の「志望者」、最終的に現役３０人以上の出願者、３～６年間の継続が、現浪併せて２０名合格の必要条件。）	中高６年を見通した校外模試実施計画を策定し、「東大を狙うことのできるポジション」にあることを多くの生徒に自覚させる。
生徒部	修道生の絆と自己肯定感を育み、自己実現に向けた自発的な学習態度を向上させる。	挨拶運動と遅刻・下校指導を有機的にリンクさせ、生徒が挨拶と時間遵守の大切さを自覚し、活気とメリハリのある学校生活を送ることで修道生の絆と誇りを深め、生徒が自己実現に向け自信をもって東大を受験する環境を整える。

	重点目標	具体的施策
教務部	授業・家庭学習の充実を図り、学習の質の向上を目指す。	教務から教員全体に対して勉強に関する指導目標のメッセージを発信する。
育成部	生徒の知的好奇心を刺激し、生徒各自がさまざまな情報を入手できる環境整備を行っていく。	図書館書籍の広報活動に力を入れ，生徒の読書活動を支援していく。
第１学年	これから始まる修道での生活に対応できるための、『生活力』をつける。	基本的生活習慣を確立させ、中学生として当然やるべきことを当たり前にできるように指導していき、その上で修道が求められている学力を身につけさせる。
第２学年	学習習慣の確立をはかり、真摯かつ前向きな授業態度の育成、および課題提出等における自発的意志の育成を行う。	校外模試を意識した学習の到達目標を設定し、日々の全テスト科目での復習テストの実施，主要科目におけるテストごとの復習課題設定などを行う。
第３学年	学習することの目的をとらえ直し、生徒各自に自らの進路を意識させることで、学ぶ集団としての成長を目指す。	進路講演会を実施し、ＬＨＲ等の場を通じて本校で学ぶことの社会的な意味を考えさせ、基礎学力の充実に主体性をもって取り組ませる。
第４学年	文理選択を端緒に、進路意識を高め、学習意欲を向上させる。	進路講演会を実施し、ＬＨＲにおける進路学習を充実させる。
第５学年	生徒の進路意識を高揚させ、「基礎学力の充実」と「苦手科目の克服」に重点を置いた学習指導を徹底する。	授業重視の姿勢をより鮮明にするとともに、「いつまでに何をすべきか」を具体的に提示しながら、主体的な学習を促していく。英語の“Day By Day”と “朝学”は継続実施する。
第６学年	生徒個々が持つ力(人間として生きていく力)をより引き出してくれる大学へ現役で進学させる。	担任が面談を通じて生徒が持つセルフイメージを打破するとともに、学年として生徒どうしが互いに向上しあえる環境を構築する。
国語科	古典の基礎学力の向上とともに、古典の高度な読解力を習得する。	月例テストでは基礎知識の習得に重点を置いた出題をし、定期テストでは難易度の高い文章を多く出題する。
社会科	小教科を超えた、授業内・授業外(論述指導など)の教科指導の方法論・指導実践の情報を共有する。	伝達事項は校内メールなどを使い、教科会を議論の場とする方向で運営する。

	重点目標	具体的施策
数学科	基礎学力を確立させ、学習意欲を向上させる。	学力の向上を図るために、既習内容の復習のさせ方を模索し、検討をする。
理科 【物理】	より高い学力を目指す意欲を引き出す。	物理の基礎である力学に十分な時間を配分し，ドリルを含む学習活動と、それに伴う成果から、効果的な学習スタイルを身につけさせる。
理科 【化学】	難関大学受験に対応できる高い水準の学力構築を目指し、東大志望者を対象とした学習会を含めたカリキュラムを、体系的に整備する。	中３時後期から高校教材を用いることにより、高校３年６月に教科書を終了さ せ、問題演習時間を確保するとともに、３年後の新課程大学入試に向けてもカリキュラムの整備を行う。
理科 【生物】	『自然に生きる生物』から、『学問としての生物』までの興味を喚起する。	断片的な知識の詰め込みに終わらないよう、関連する事項と常につなげながらトータル的な視点で理解させる授業を展開する。
理科 【地学】	センター試験受験者の内、成績が中・下位層の者を底上げし、集団の質的向上を図る。	５年、６年の補習などの時間も有効に活用して授業内容を５年の内に終了し、６年の早い段階から復習・問題演習に入ることを目指す。
英語科	高校新課程への対応を含めて、中級での実力を底上げする。	高校新課程初年度に当たる３年生のシラバスを根本から作り直し、生徒の学習意欲をこれまで以上に喚起する。
芸術・技術・家庭科	「感性」と「価値観」を育てることを中心に据えた授業展開を目指し、自らモチベーションを高めることができるような生徒を育成する。	成長段階に応じた知的好奇心をくすぐる授業内容・展開を工夫し、練習・作業過程に対する完成度や達成感の違いを体感させる。
保健体育科	日常のあらゆる活動の基本となる、軸のしっかりした身体を育成する。	全ての学年で、体育授業の開始5分間、体幹（インナーマッスル）を中心としたトレーニングを通年実施する。

【職員の部】

主要項目	具体策	実施月
◆教職員の能力開発と業務改善 (1) 新人事考課制度の実施	新人事考課制度の実施による事務組織の活性化及び個人の能力のレベルアップを図る。	年間
(2) 年金支給開始年齢引き上げに伴う、定年年齢の引き上げ	広島県の動向を踏まえ、制度化に向けて検討する。	年間
(3) 事務組織の活性化	業務の見直しと公平化を図る。	年間
◆教育環境整備 (1) 財政計画の検証	中長期の財政計画を検証すると共に、併せて財政健全化に向けての諸施策を検討する。	年間
(2) 御三の蔵復元工事の実施	御三の蔵復元に伴う具体的な実施計画の策定及びその実施。	11月
(3) PC教室整備計画の検討	耐用年数を迎えるPC教室のサーバ等の機器の取替検討。	12月
(4) 空調機器の取替更新	老朽化の著しい本館空調機器の取替更新を行い、環境整備と省エネルギーを図る。	12月
(5) メンタルヘルス向上に向けての取組	教職員に対するメンタルヘルス研修会等の実施と復帰プログラムの作成、実施。	年間
(6) ハラスメント防止規定の見直し	ハラスメント防止の関連規程を見直し、整備に向けて検討する。	年間